

うらやす



宇部市立上宇部小学校
学校だより 8月号
令和7年8月7日発行

今一度「A I」について一考します！！

校長 神田橋 芳幸

7月号に記載した「生成A Iによる『あっという間の1学期！！』」について、反響があったことを受けて、改めてこのテーマで考えてみたいと思います。

実は、前回、生成A Iに「うらやす」の文章を書かせる前に、私自身が「あっという間の1学期」というタイトルで実際に書いています。私が、構想から書き終わるまでに要した時間は、1時間近くです。A Iが出力するのにかかった時間は、わずか2、3秒で、A Iは私のおよそ1,200倍の速さで生成したことになります。さらに驚いたのは、私が書いたものとA Iが書いたものを比較しても、伝えたいことや、思いはかなり重なり合っていたことです。ほぼ私の意図が伝わる内容であり、“これならA Iの文章でも十分では…”と、思ってしまったほどです。

<事実> A Iの能力はすごい！！

すでに私たちの身の回りにはA I技術がどんどん入り込み、それが当たり前の社会になっています。これからは、さらに変化が激しくなり、先を見通すことが、一層困難になってきそうです。

<だからこそ……>



私たち大人は、そんな社会を子どもたちがたくましく生きていけるようにサポートするとともに、私たち自身がA Iに翻弄されることがないように、A Iと向き合う必要があると思います。A Iと向き合うためには、①知ること、②理解すること、③使ってみることからはじめられたらと思っています。

教育は、社会の最先端を行く……と言われることがあります。だからこそ、私たち教職員も、A Iと向き合いながら「子どもたちにどのような力が必要なのか？」「どんな利活用が考えられるのか？」など、対話を繰り返していく必要があります。

と同時に、「不易と流行」の観点から、「不易」の部分にもしっかり目を向け「大切にしていくものは何か？」「守るべきものは何か？」についても、問い続けていかななくてはならないと思っています。

今、子どもたちは、子どもたちの特権である、夏休みを謳歌していることと思います。夏休みには、地域行事や家族行事があったり、友だちと遊んだり、宿題をしたり……。A Iが急速に発展しても、子どもたちの夏休みは、「昔と変わらぬ夏休み」のような気がします。夏休みには、学校ではなかなかできない、ステキで貴重な体験・経験を多くの子どもたちにしてほしいと思う、今日この頃です。